



Windows版Talend Open Studio for Data Qualityイン ストールおよびアップグレ ードガイド 7.3.1

Last updated: 2020-02-19

目次

| | |
|---|-----------|
| Copyright..... | 3 |
| Talend Open Studio for Data Quality: 前提条件..... | 4 |
| このインストールガイドについて..... | 4 |
| インストールの準備..... | 4 |
| ハードウェア要件..... | 5 |
| ソフトウェア要件..... | 5 |
| JAVA_HOMEの設定..... | 11 |
| 手動によるTalend Open Studio for Data Qualityのインストール..... | 12 |
| Talend Studioのインストールと設定..... | 12 |
| Talend製品のアップグレード..... | 22 |
| 環境のバックアップ..... | 22 |
| Talend StudioでTalendプロジェクトをアップグレード..... | 22 |
| 付録..... | 23 |
| サポートされる他社のシステム/データベース/ビジネスアプリケーションのバージョン..... | 23 |

Copyleft

7.3.1に対応しており、以前のリリースの更新版となります。

このドキュメントの内容は公開の時点で正確なものです。

ただし、オンライン([Talend Help Center](#))で最新の更新バージョンが入手できる場合があります。

このドキュメンテーションは、クリエイティブコモンズ公共ライセンス(CCPL)の条件の下で提供されています。

CCPLに準拠した本ドキュメンテーションにおける許可事項および禁止事項の詳細は、<http://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/2.0/>を参照してください。

商標について

TalendはTalend, Inc.の商標です。

すべてのブランド、商品名、会社名、商標、およびサービスマークは各所有者に帰属します。

ライセンス契約

このドキュメンテーションに記述されているソフトウェアは、Apache License、バージョン2.0 (以下「本ライセンス」という)の下でライセンスされています。本ライセンスを遵守せずに、このソフトウェアを使用することはできません。ライセンスのコピーは、<http://www.apache.org/licenses/LICENSE-2.0.html>で取得できます。当該の法律による要求または書面での同意がない限り、本ライセンスの下で配布されるソフトウェアは、「現状有姿」で、明示または暗示にかかわらず、あらゆる保証あるいは条件なしで提供されます。ライセンスの下で許可および制限を適用する特定の言語のライセンスを参照してください。

この製品には、ASMで開発されたソフトウェア、AntLR、Apache ActiveMQ、Apache Ant、Apache Axiom、Apache Axis、Apache Axis 2、Apache Chemistry、Apache Common Http Client、Apache Common Http Core、Apache Commons、Apache Commons Bcel、Apache Commons Lang、Apache Datafu、Apache Derby Database Engine and Embedded JDBC Driver、Apache Geronimo、Apache HCatalog、Apache Hadoop、Apache Hbase、Apache Hive、Apache HttpClient、Apache HttpComponents Client、Apache JAMES、Apache Log4j、Apache Neethi、Apache POI、Apache Pig、Apache Thrift、Apache Tomcat、Apache Xml-RPC、Apache Zookeeper、CSV Tools、DataNucleus、Doug Lea、Ezmorph、Google's phone number handling library、Guavaが含まれています：Java、H2 Embedded Database、およびJDBCドライバー用のGoogle Coreライブラリ、HighScale Lib、HsqlDB、JSON、JUnit、Jackson Java JSON-processor、Java API for RESTful Services、Java Universal Network Graph、Jaxb、Jaxen、Jetty、Joda-Time、Json Simple、MapDB、MetaStuff、Paracel JDBC Driver、PostgreSQL JDBC Driver、Protocol Buffers - Google's data interchange format、Resty: Java用の単純なHTTP RESTクライアント、SL4J、SL4J: Simple Logging Facade for Java、SQLite JDBC Driver、The Castor Project、The Legion of the Bouncy Castle、Woden、Xalan-J、Xerces2、XmlBeans、XmlSchema Core、atinject。各ライセンスの下でライセンスされています。

Talend Open Studio for Data Quality: 前提条件

このインストールガイドについて

このガイドでは、Talend製品をインストールして設定する方法を説明しています。製品のインストールには、Talendインストーラーを使う方法、Talendモジュールを手動でインストールする方法、Red Hat Package Manager (RPM)を使う方法があります。開始する前に、「インストールの準備」を読み、インストールに関するハードウェアとソフトウェアの要件が満たされていることを確認してください。

注: Talendのサポートでは、Talend製品が機能するために必要な場合は、サードパーティのコンポーネントとデータベースに関する問題を調査致します。ただし、Talendではサードパーティのコンポーネントやデータベースのためにパッチを提供することはできません。

インストールの準備

ソフトウェアパッケージ

このページには、Talend製品をインストールするためにダウンロードが必要なソフトウェアパッケージがリスト表示されます。

下表のソフトウェアパッケージのファイル名では:

- YYYYMMDD_HHmmはパッケージのタイムスタンプ、
- A.B.Cはパッケージのバージョン番号(メジャー、マイナーパッチ)に対応します。

注: ソフトウェアモジュールは、クライアント側とサーバー側の両方で同じバージョンである必要があります。ソフトウェアパッケージをダウンロードする時に、タイムスタンプとバージョン番号が同じであることを確認してください。

手動インストールソフトウェアパッケージ

| ファイル名 | 説明 |
|--|---|
| Talend-Studio-YYYYMMDD_HHmm-VA.B.C.zip | Studio IDE (GUI) このページ からダウンロードできます。 |

コミュニティとサポート

Talendインストールのヘルプおよびサポートを得るための方法がいくつかあります。

- [公式Talendドキュメント](#)。ここでは、Talend製品のインストールと使用に役立つあらゆるものを見つけることができます。
- [Talendコミュニティ](#)。ここでは、コミュニティに質問を行い、回答を得ることができます。

ハードウェア要件

Talend製品をインストールする前に、使用しているマシンがTalendによって推奨される以下のハードウェア要件を満たしていることを確認してください。

メモリおよびディスク使用量は、目的のTalendプロジェクトのサイズや特性によって大きく異なります。ただし、多くの変換コンポーネントがジョブに含まれる場合は、次の推奨事項を基に、サーバーに割り当てるメモリの合計量をアップグレードすることを検討して下さい。

メモリ使用量

| 製品 | クライアント/サーバー | メモリ要件 (推奨最小メモリ) |
|---------------|-------------|--------------------|
| Talend Studio | クライアント | 3GB - 4GB |

注: モジュール上で実行されているプロセスの数によっては、利用可能なメモリを増やす必要があります。同じホストに複数の製品がインストールされている場合、Talendでは、8論理プロセッサのi7 CPUを使用することを推奨しています。

ディスク容量要件

| 製品 | クライアントまたはサーバー | インストールに必要なディスク容量 | 使用に必要なディスク容量 |
|---------------|---------------|------------------|--------------|
| Talend Studio | クライアント | 3GB | 3GB以上を推奨 |

1 たとえば、ディスク上に500万レコード= 10 GBの空き容量が必要です。Talendでは、ハイトランザクション中に問題が発生しないように、必須サイズの倍の空き容量を確保しておくことをお勧めします。

2 これらの要件は、MongoDBメタデータサイズを考慮しません。

3 各タスクに50の属性がある50,000タスクを含むキャンペーンにはお勧めしません。

ソフトウェア要件

互換性があるオペレーティングシステム

このページでは、Talend製品で推奨およびサポートされるオペレーティングシステムについて詳しく説明します。

このドキュメンテーションでは、次のように使用されています。

- **推奨:** 経験とカスタマー事例に基づいてTalendにより推奨される環境を示します。
- **サポート:** リストされているコンポーネントまたはサービスの使用においてサポートされる環境を示します。

- 制限付きサポート: メモで説明されている特定の条件付きでTalendによってサポートされる環境を示します。

Talend Studio

表 1 : Talend Studioと互換性があるオペレーティングシステム

| オペレーティングシステムファミリー(64ビット) | オペレーティングシステム | バージョン | サポートタイプ |
|--------------------------|---------------------------------|-------------------|---------|
| Linux | Ubuntu | 18.04 LTS | 推奨 |
| | Red Hat Enterprise Linux Server | 8 | サポート |
| | | 7 | サポート |
| | CentOS | 8 | サポート |
| | | 7 | サポート |
| Microsoft | Windows | 10 | 推奨 |
| | Windows Server | 2019 | サポート |
| | | 2016 (RTM) | サポート |
| | | 2012 | サポート |
| Mac | Apple MacOS | Catalina 10.15 | サポート |
| | | Mojave 10.14 | サポート |
| | | High Sierra 10.13 | サポート |

互換性があるJava環境

次の表は、Talend製品を使用するためにダウンロードしてインストールするべき推奨Java環境に関する情報を示しています。

Compiler Compliance Levelは、ジョブコード生成に使用されるJavaバージョンに対応します。このオプションは、Studio環境設定で変更できます。詳細は、『Talend Studioユーザーガイド』を参照してください。

注: Talendの全製品と関連するサードパーティアプリケーション(Hadoopクラスターなど)は、コンプライアンスのために同じJavaバージョンを使用する必要があります。Talendでは、関連するサードパーティアプリケーションをインストールまたはアップグレードする前に、サポートされているJavaバージョンを確認することをお勧めしています。

このドキュメンテーションでは、次のように使用されています。

- 推奨: 経験とカスタマー事例に基づいてTalendにより推奨される環境を示します。
- サポート: リストされているコンポーネントまたはサービスの使用においてサポートされる環境を示します。

- 制限付きサポート: メモで説明されている特定の条件付きでTalendによってサポートされる環境を示します。

StudioのJava環境

表 2 : Talend Studioと互換性があるJava環境

| Javaプラットフォーム | Javaバージョン ^{1、2、3} | サポートタイプ |
|--------------|----------------------------|---------|
| Open JDK | 11 | 推奨 |
| | 8 | サポート |
| Oracle | 11 | 推奨 |
| | 8 | サポート |

1 Oracle 8の実行時には、StudioはJDKコンパイラーのコンプライアンスレベル1.8 (デフォルト)に準拠する必要があります。インストールされているJDKのバージョンが1.8.0_161未満の場合は、追加リソースである[Java Cryptography Extension \(JCE\)無制限強度管轄ポリシーファイル](#)をインストールする必要があります。これはスタンドアロンジョブの実行にも適用できます。

2 Oracle 11の実行時には、StudioはJDKコンパイラーのコンプライアンスレベル11 (デフォルト)に準拠する必要があります。

3 Open JDK用に推奨されるディストリビューションは、[Zulu](#)です。

Talend ESBと互換性のあるApacheソフトウェアとJMS Broker

次の表は、Talend ESBと互換性のあるApacheソフトウェアとJMS Brokerの情報を示しています。

サポートされるApacheソフトウェア

| ソフトウェア | 詳細情報 |
|--------------------------------------|-------------------------|
| Apache Karaf 4.2.7 ¹ | リリースノート |
| Apache CXF 3.3.4 ¹ | リリースノート |
| Apache Camel 2.24.2 ² | リリースノート |
| Apache ActiveMQ 5.15.10 ¹ | リリースノート |

1 サービスリリースアップグレード。

2 マイナーリリースアップグレード。

SOAP/JMSに対応したメッセージングブローカー

| ソフトウェア | 詳細情報 |
|-------------------------|-------------------------|
| Apache ActiveMQ 5.15.10 | リリースノート |

| ソフトウェア | 詳細情報 |
|----------------------|------|
| IBM WebSphere MQ 9.1 | |
| IBM WebSphere MQ 9.0 | |
| IBM WebSphere MQ 8.5 | |

互換性のあるWebアプリケーションサーバー

次の表は、Talendサーバーモジュール用に推奨およびサポートされるWebアプリケーションサーバーに関する情報を示しています。

このドキュメンテーションでは、次のように使用されています。

- 推奨: 経験とカスタマー事例に基づいてTalendにより推奨される環境を示します。
- サポート: リストされているコンポーネントまたはサービスの使用においてサポートされる環境を示します。
- 制限付きサポート: メモで説明されている特定の条件付きでTalendによってサポートされる環境を示します。

互換性のあるコンテナ

次の表は、Talendサーバーモジュール用に推奨およびサポートされるコンテナに関する情報を示しています。

このドキュメンテーションでは、次のように使用されています。

- 推奨: 経験とカスタマー事例に基づいてTalendにより推奨される環境を示します。
- サポート: リストされているコンポーネントまたはサービスの使用においてサポートされる環境を示します。
- 制限付きサポート: メモで説明されている特定の条件付きでTalendによってサポートされる環境を示します。

Talend ESB

| Runtimeコンテナ | バージョン | サポートタイプ |
|-------------------------------|---------------------|---------|
| Talend Runtime (Apache Karaf) | 7.3 ² | 推奨 |
| Apache Tomcat | 9.0.30 ¹ | 推奨 |
| | 9.0.30 ³ | サポート |

1 Talend Identity Management用の推奨バージョン。

2 Talend Identity Managementには推奨されません。

3 CXF Services、Camel Routes、サービスアクティビティモニタリング、Talend Identity Management、セキュリティトークンサービスのみ。

互換性があるWebブラウザ

次の表は、Talend製品を最大限に活用できるように、推奨およびサポートされているWebブラウザに関する情報をまとめたものです。

サポートされている最小の画面解像度は1366 x 768 (px)です。ブラウザとシステムの設定(スケーリング、ズーム、ウィンドウサイズなど)はブラウザの互換性に影響します。

このドキュメンテーションでは、次のように使用されています。

- 推奨: 経験とカスタマー事例に基づいてTalendにより推奨される環境を示します。
- サポート: リストされているコンポーネントまたはサービスの使用においてサポートされる環境を示します。
- 制限付きサポート: メモで説明されている特定の条件付きでTalendによってサポートされる環境を示します。

| Webブラウザ | サポートタイプ |
|----------------------------------|---------|
| Mozilla Firefox 331 | 推奨 |
| Mozilla Firefoxの利用可能な最新バージョンまで | サポート |
| Microsoft Internet Explorer 11以降 | サポート |
| Microsoft Edgeの利用可能な最新バージョンまで | サポート |
| Apple Safari 12以降 | サポート |
| Google Chromeの利用可能な最新バージョンまで | サポート |

注: Talendでは、最新バージョンのブラウザを実行することを推奨しています。Talend特定のバージョンが指定される場合を除き、上記のブラウザの最新バージョンがサポートされています。

互換性のあるデータベース

次の表は、Talendサーバーモジュールとともに使用可能な推奨およびサポートされるデータベースに関する情報を示しています。

このドキュメンテーションでは、次のように使用されています。

- 推奨: 経験とカスタマー事例に基づいてTalendにより推奨される環境を示します。
- サポート: リストされているコンポーネントまたはサービスの使用においてサポートされる環境を示します。
- 制限付きサポート: メモで説明されている特定の条件付きでTalendによってサポートされる環境を示します。

互換性のあるメッセージングシステム

次の表は、Talendサーバーモジュールとともに使用可能な推奨されるメッセージングシステムに関する情報を示しています。

このドキュメンテーションでは、次のように使用されています。

- 推奨: 経験とカスタマー事例に基づいてTalendにより推奨される環境を示します。
- サポート: リストされているコンポーネントまたはサービスの使用においてサポートされる環境を示します。
- 制限付きサポート: メモで説明されている特定の条件付きでTalendによってサポートされる環境を示します。

警告: Apache KafkaがWindowsマシンにインストールされている場合、Kafkaブローカーは古いログファイルを削除することができません。これは、Windowsオペレーティングシステムにおけるファイルの管理のしかたによるものです。Apache KafkaをWindowsにインストールすると、古いログファイルを消去できないためにTalend Data Preparation、Talend Data Stewardship、Talend Dictionaryサービスが動作しなくなり、Apache Kafkaは最終的に機能しなくなります。Talendでは、Apache KafkaをLinuxマシンにインストールすることを推奨していません。

互換性があるアーティファクトリポジトリ

次の表は、Talendサーバーモジュールとともに使用可能なサポートされるアーティファクトリポジトリに関する情報をまとめたものです。

このドキュメンテーションでは、次のように使用されています。

- 推奨: 経験とカスタマー事例に基づいてTalendにより推奨される環境を示します。
- サポート: リストされているコンポーネントまたはサービスの使用においてサポートされる環境を示します。
- 制限付きサポート: メモで説明されている特定の条件付きでTalendによってサポートされる環境を示します。

| アーティファクトリポジトリ | バージョン | サポートタイプ |
|-------------------|-------------------|---------|
| JFrog Artifactory | SaaS | 推奨 |
| | 6.12 ¹ | 推奨 |
| Sonatype Nexus | 3.15~3.18 | サポート |

1 リリース日時点(2019年9月23日)で最新。

互換性がある実行サーバー

次のテーブルを使用して、実行サーバーバージョンとバージョンTalend Administration Center、Talend CommandLine、Talend Studioとの間に互換性があることを確認します。

注: このセクションに記載されている情報は公開日当日には有効ですが、後日変更される場合があります。

ジョブサーバー(Talend JobServerおよびTalend Runtimeのジョブサーバー)

| | |
|--|-------------------------------------|
| バージョンTalend Administration Center、Talend CommandLine、Talend Studio | 互換性があるTalend JobServerバージョン |
| 7.3.x | 6.4.x、6.5.x、7.0.x、7.1.x、7.2.x、7.3.x |

警告:

Talend Administration CenterでSSLとトークン認証をアクティブ化する場合、使用できるのはSSL/トークン認証をサポートするジョブサーバーのみです。Talend Administration Centerは、暗号化された通信をサポートしていない古いジョブサーバーを監視できません。

詳細は、「[SSL転送と認証の設定](#)」を参照してください。

JAVA_HOMEの設定

Talend製品でマシンにインストールされているJava環境を使用するには、JAVA_HOME環境変数を設定する必要があります。

手順

1. Javaがインストールされているフォルダーを見つけます。
たとえば、次のような場合があります:
 - C:\Program Files\Java\JREx.x.x
 - C:\Program Files\Zulu
2. **[Start]**(スタート)メニューを開き、検索バーにEnvironment variable(環境変数)と入力して、環境変数のプロパティを開きます。
3. **[Environment Variables...]**(環境変数...)をクリックします。
4. **[System Variables]**(システム変数)で、**[New...]** (新規...)をクリックして変数を作成します。変数JAVA_HOMEに名前を付け、Java環境のパスを入力して、**[OK]**をクリックします。
5. **[System Variables]**(システム変数)で、**[Path]**(パス)変数を選択し、**[Edit...]** (編集...)をクリックして、次の変数をパス変数値の最後に追加します: ;%JAVA_HOME%\bin

手動によるTalend Open Studio for Data Qualityのインストール

Talend Studioのインストールと設定

アーカイブの展開

手順

1. [このページ](#)から製品をダウンロードして下さい。
2. 7-zipを使用して展開します。

メモリー設定とJVM設定の編集

実行時およびTalend Studioの起動時にパフォーマンスを向上させるため、次の手順を実行します。:.iniのメモリー設定を編集することができます。

手順

1. TOS_DQ-win-x86_64.iniファイルを編集します。
2. メモリ属性を編集します。たとえば、次のような場合があります：

```
-vmargs -Xms512m -Xmx1536m -XX:MaxMetaspaceSize=512m
```

ヒント: 大きなプロジェクトでは、Xmxを4096mに増やす必要があります。

詳細は、<http://www.oracle.com/technetwork/java/hotspotfaq-138619.html>を参照して下さい。

Talend Studioの起動

手順

TOS_DQ-win-x86_64.exe実行可能ファイルをダブルクリックしてTalend Studioを起動します。

外部モジュールのインストール

Talend Studioでは、ソースやターゲットに接続できるよう、特定のサードパーティーJavaライブラリーかデータベースドライバをインストールする必要があります。

外部モジュールと呼ばれるこれらのライブラリーやドライバは、一部のTalendコンポーネント、一部の接続ウィザード、またはその両方で必要とされることがあります。ライセンスの制限により、Talendは特定の外部モジュールの一部をTalend Studioに同梱できない場合があります。Studioを適切に動作させるには、これらをインストールする必要があります。

警告: `-Dtalend.disable.internet`パラメーターがStudioの.iniファイル内に存在しないか、`false`に設定されていることを確認します。

外部モジュールをインストールするタイミング

Talend Studioに、外部モジュールのインストールが必要なタイミングとインストールする外部モジュールが表示されます。

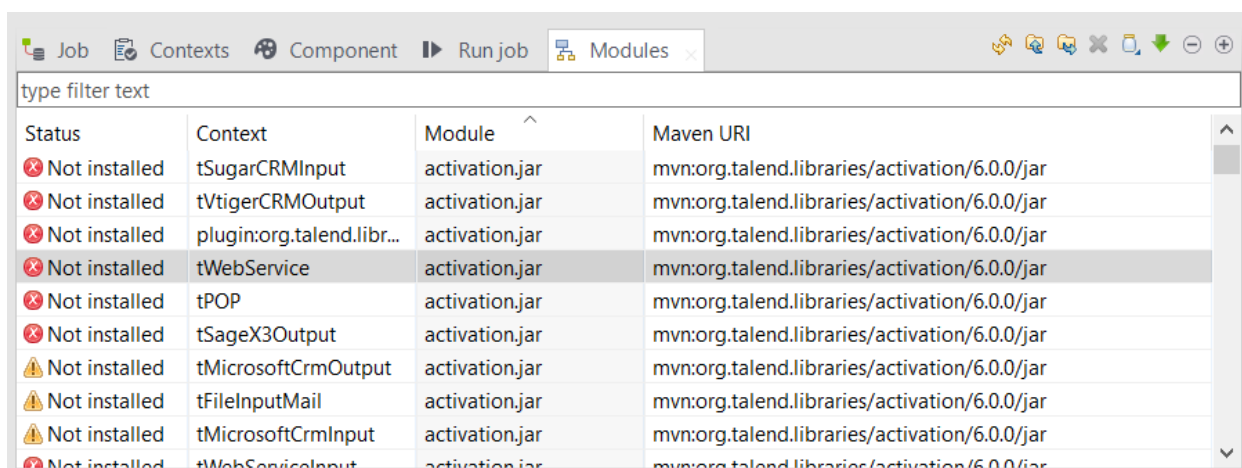
使用しているTalend Studioが、必要な外部モジュールを複数の方法で通知します。

- **[Additional Talend packages] (Talendパッケージの追加)**ウィザードは、Studioの機能を利用するためにインストールする必要のある追加パッケージ(外部モジュールを含む)がある場合に、Talend Studioの起動時に開きます。

ヒント: **[Additional Talend packages] (Talendパッケージの追加)**ウィザードは、Studioのメニューから**[Help] (ヘルプ) > [Install Additional Packages] (追加パッケージのインストール)**を選択して開くこともできます。








- デザインワークスペースでコンポーネントの動作に外部モジュールのインストールが必要な場合、このコンポーネントには赤色のインジケータが表示されます。エラーインジケータにマウスポインターを合わせると、ツールチップのメッセージで、そのコンポーネントが動作するために必要な外部モジュールが示されます。
- 1つまたは複数の外部モジュールが必要なコンポーネントの**[Basic settings] (基本設定)**ビューまたは**[Advanced settings] (詳細設定)**ビューを開くと、外部モジュールに関する主要情報が表示され、そのとなりに**[Install] (インストール)**ボタンが表示されます。**[Install] (インストール)**ボタンをクリックすると、ウィザードが開き、インストール対象の外部モジュールが示されます。
- **[Modules] (モジュール)**ビューには、インストールが必要なJavaライブラリーとドライバーを含め、Studioが正常に動作するために必要なすべてのモジュールがリスト表示されます。

デザインワークスペースに**[Modules](モジュール)**ビューが表示されていない場合は、**[Window] (ウィンドウ) > [Show View...] (ビューの表示...) > [Talend]**と選択し、リストで**[Modules](モジュール)**を選択します。




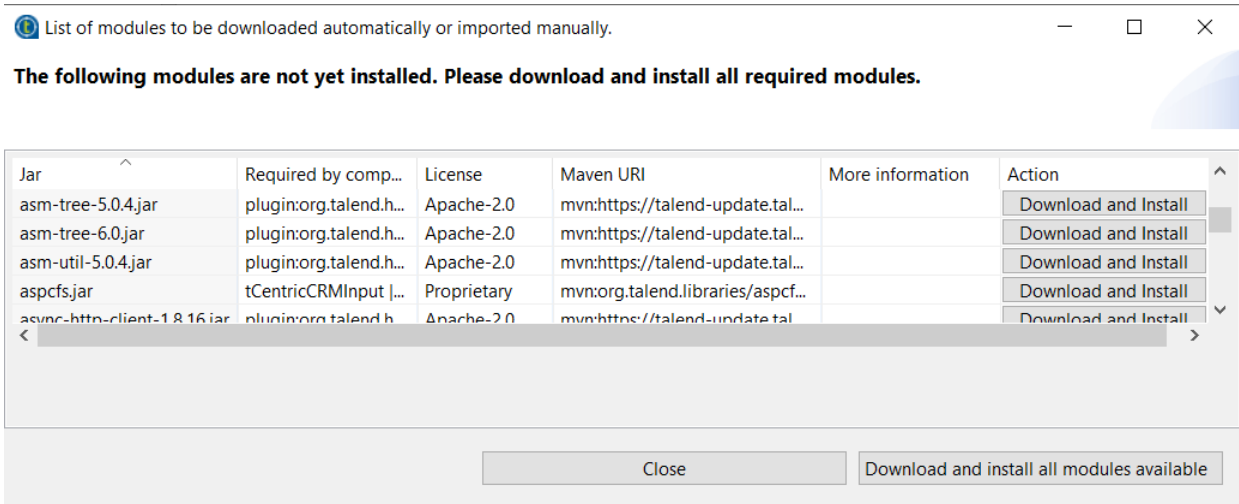
このビューの場合:

| アイテム | 説明 |
|-------------------------------|---|
| Filter text (テキストのフィルター)フィールド | ステータスに基づいた外部モジュール、コンテキスト、モジュールファイル名、Maven URIを検索できます。 |

| アイテム | 説明 |
|---|--|
| Status (ステータス) | <p>モジュールがシステムにインストールされているかどうかを示します。</p> <p> アイコンは、このカラムに表示された対応するコンポーネントまたはメタデータ接続に対してこのモジュールが必要とは限らないことを示しています。</p> <p> アイコンはコンポーネントまたはメタデータ接続に対してこのモジュールが必須であることを示します。</p> |
| Context (コンテキスト) | <p>モジュールを使用するコンポーネントやメタデータ接続の名前を示します。このカラムが空の場合は、そのモジュールがTalend Studioの使用全般に必要なことを意味します。</p> |
| Module (モジュール) | <p>モジュールの正確な名前を示します。</p> |
| Maven URI | <p>Mavenでのモジュールのデプロイを一意識別します。</p> <p>Maven URIフィールドをクリックし、表示される[...]ボタンをクリックすると、モジュールのMaven URIをカスタマイズできます。詳細は、外部モジュールのデプロイを目的とするMaven URIのカスタマイズ (16ページ) を参照してください。</p> |
|  | <p>このビューを更新し、モジュールインストールの最新ステータスが反映されるようにします。</p> <p>共同作業であれば、あるユーザーのStudioに必要なモジュールがインストールされた場合、もう一方のユーザーは[Modules] (モジュール)ビューを更新するだけでこのモジュールを自分のTalend Studioに追加できます。</p> |
|  | <p>ローカルファイルからMaven設定をインポートします。</p> |
|  | <p>ローカルファイルにMaven設定をエクスポートします。</p> |
|  | <p>ダウンロード済みの外部モジュールをStudioにインストールできます。詳細は、[Modules] (モジュール)ビューを使用して外部モジュールを手動でインストールする (19ページ) を参照してください。</p> |
|  | <p>Jarダウンロードとインストールウィザードが開き、Talend Studioに統合されていない選択済みの外部モジュールがすべてリスト表示されます。</p> |

- Jarインストールウィザードは、以下の場合に表示されます。
 - **[Palette] (パレット)**からコンポーネントをドロップした際に、そのコンポーネントを動作させるために必要な1つまたは複数の外部モジュールがStudioに存在しない場合。
 - Studioのメタデータ接続セットアップウィザードの**[Check] (チェック)**ボタンをクリックした際に、接続に必要な1つまたは複数の外部モジュールがStudioに存在しない場合。

- コンポーネントの[Component] (コンポーネント)ビューで[Guess schema] (スキーマの推測)ボタンをクリックした際に、そのコンポーネントを動作させるために必要な1つまたは複数の外部モジュールがStudioに存在しない場合。
- 1つまたは複数の必須外部モジュールが不足しているコンポーネントの[Basic settings] (基本設定)または[Advanced settings] (詳細設定)ビューの上部で [Install] (インストール)をクリックした場合。
- 1つまたは複数の必須外部モジュールが不足しているコンポーネントまたはメタデータ接続が関連するジョブを実行した場合。
- Studioに統合されていないモジュールを1つまたは複数選択し、[Modules] (モジュール)ビューで  ボタンをクリックした場合。



このウィザードの場合:

- インストールが必要な外部モジュールと、その使用を許可するライセンスがリスト表示されます。
- モジュールのデプロイを識別するデフォルトのMaven URIを利用できます。
- モジュールの詳細が記載されている公式サイトを利用できます。
- Talendリポジトリで利用可能なモジュールをすべて自動的にダウンロードしてインストールできます。
- Talendリポジトリで利用できないモジュールを手動でインストールできます。

外部モジュールを必要とするコンポーネントのドロップ、接続の設定、またはデータベースのスキーマの推測を行う際に、TalendのWebサイトでJarファイルとダウンロードURLのどちらも利用できない場合は、Jarインストールウィザードは表示されません。ただし、**Error Log** (エラーログ)ビューに、該当するモジュールのダウンロードURLが利用できなかったことを示すエラーメッセージが表示されます。自分で検索してダウンロードし、Studioに手動でインストールできます。

ヒント: タブシステムに[Error Log] (エラーログ)ビューを表示するには、[Window] (ウィンドウ) > [Show views] (ビューの表示)を選択し、[General] (一般)ノードを展開して[Error Log] (エラーログ)を選択します。

外部モジュールのデプロイを目的とするMaven URIのカスタマイズ

Talend Studioでは、Mavenでデプロイを識別できるように、各外部モジュールにデフォルトのURIが与えられます。Maven URIは必要であれば変更することもできます。

たとえばインストール済みのデータベースドライバーを新しいバージョンに置き換える場合は、他の別Maven URIを指定する必要があります。


注:

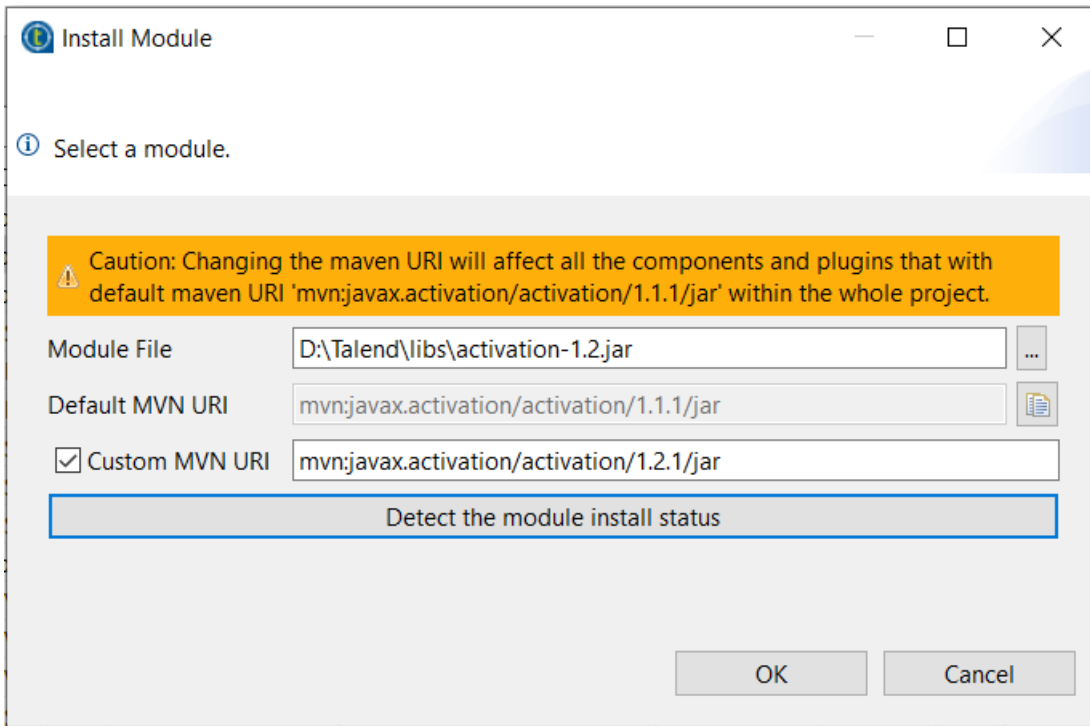
外部モジュール用にMaven URIを変更すると、プロジェクト内でそのモジュールを使用するすべてのコンポーネントやメタデータに影響します。

リモートプロジェクトで作業している場合、Maven URIのカスタム設定はTalend Artifact Repositoryと自動的に同期され、同じプロジェクトで作業している他のユーザーが外部モジュールをインストールする時に使用されます。

手順

1. **[Modules] (モジュール)**ビューで、カスタマイズするMaven URIをクリックした後、表示される[...]ボタンをクリックします。
[Install Module] (モジュールのインストール)ダイアログボックスが表示されます。
2. 外部モジュールの別のバージョンをインストールする場合は、**[Module File] (モジュールファイル)**フィールドで該当するモジュールファイルへのフルパスを指定し、[...]ボタンをクリックしてローカルのファイルシステムで参照します。
3. **[Custom MVN URI] (カスタムMVN URI)**チェックボックスを選択し、フィールドに新しいURIを入力します。

デフォルトのMVN URIフィールドの横にある  ボタンをクリックしてデフォルトのMaven URIをコピーし、**[Custom MVN URI] (カスタムMVN URI)**フィールドに貼り付けてこれを変更します。



4. **[Detect the module install status] (モジュールのインストール状況の検出)**ボタンをクリックし、**[OK]**をクリックしてダイアログボックスを閉じます。

タスクの結果

新しいMaven URIが有効になり、**[Modules] (モジュール)**ビューで表示されます。ここからMaven URIのすべての変更をローカルのJSONファイルにエクスポートできます。

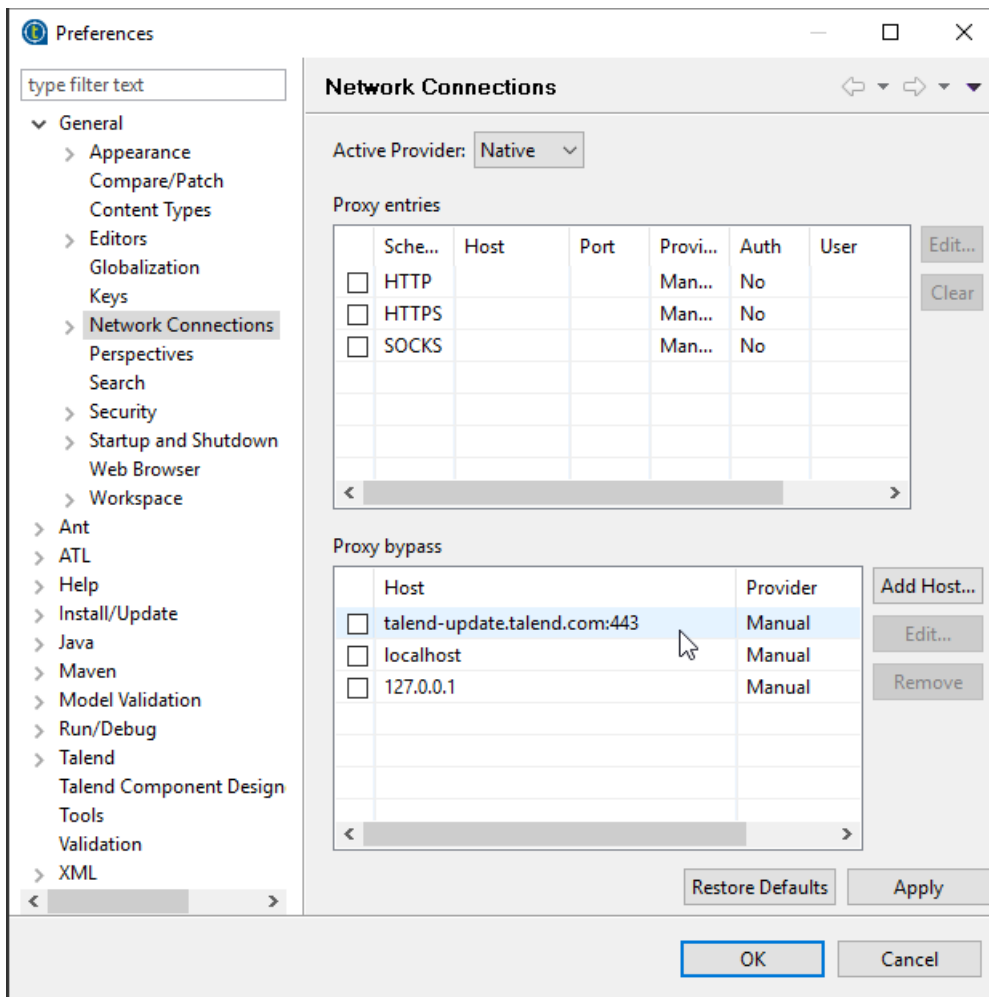
Studio内から外部モジュールをインストールする

外部モジュールのほとんどは、Talend Studioに提供されているウィザードを使用してダウンロードし、自動的にインストールすることができます。

始める前に

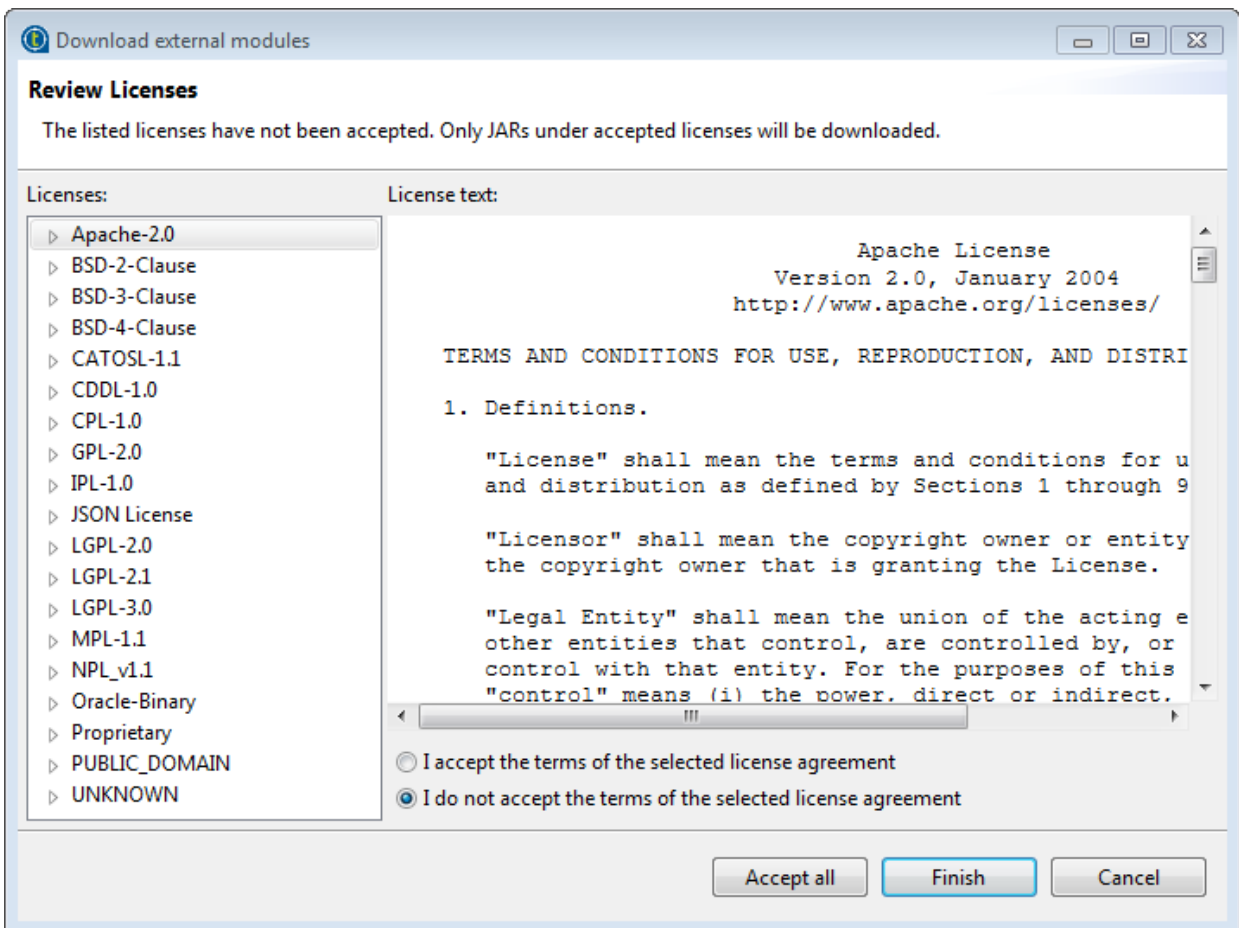
Talend Studioにセキュリティで保護されたインターネット接続があることを確認して下さい。

ネットワークプロキシを使用して作業する場合は、プロキシが正しく設定されていることを確認し、Webサイト<http://talend-update.talend.com>とポート443をホワイトリストに追加します。プロキシ設定を開くには、メニューで**[Window] (ウィンドウ) > [Preferences] (環境設定)**を選択して**[Preferences] (環境設定)**ウィンドウを開き、**[General] (全般設定)**ノードを展開して**[Network Connections] (ネットワーク接続設定)**をクリックします。



手順

1. 次の手順に従って[Download external modules] (外部モジュールのダウンロード)ダイアログボックスを開きます。
 - [Additional Talend Packages] (Talendパッケージの追加)ウィザードで[Required third-party libraries] (必須のサードパーティライブラリ)または[Optional third-party libraries] (オプションのサードパーティライブラリ)チェックボックスをオンにして、[Finish] (終了)をクリックします。
 - Jarインストールウィザードで、[Download and Install] (ダウンロードとインストール)ボタンをクリックして特定のモジュールをインストールするか、または[Download and install all modules available] (全てのモジュールをダウンロードおよびインストール)ボタンをクリックして利用可能な全てのモジュールをインストールします。



2. 利用条件に同意してダウンロードとインストールを開始します。

- 特定のライセンスで提供されている外部モジュールをダウンロードしてインストールするには、**[Licenses](ライセンス)**ペインから該当するライセンスを選択します。利用条件を確認して**[I accept the terms of the license agreement](使用許諾契約書の条件に同意します)**オプションを選択し、**[Finish](終了)**をクリックします。
- 一覧のすべてのライセンスで提供される、すべての外部モジュールをダウンロードしてインストールするには、**[Accept all](すべて同意)**ボタンをクリックします。

タスクの結果

インストールが完了すると、選択した外部モジュールがTalend Studioにインストールされ、それらのモジュールを必要とするTalend Studioのフィーチャーが使用できるようになります。


[Modules] (モジュール)ビューを使用して外部モジュールを手動でインストールする

外部モジュールがダウンロード済みの場合は、Talend Studioに手動でインストールすることができます。

始める前に

Oracle 9i用のJDBCドライバーをTalend Studioにインストールする場合は、最初にファイル名をojdbc14.jarからojdbc14-9i.jarに変更します。

手順

1. **[Modules] (モジュール)**ビューの右上またはJarインストールウィザードにある  ボタンをクリックして、ローカルファイルシステムを参照します。
2. システムの**[Open] (開く)**ダイアログボックスで、インストールするモジュールの場所に移動し、.jarファイルをダブルクリックするか、このファイルを選択して**[Open] (開く)**をクリックし、Talend Studioにインストールします。

タスクの結果

ダイアログボックスが閉じ、選択したモジュールが現在のTalend Studioのライブラリーフォルダーにインストールされます。

Talend Webアプリケーション用に外部モジュールを手動でインストールする

Talend Webアプリケーションを使用するために必要なモジュールの一部はTalend Webサイトでは入手できませんが、外部のWebサイトから直接ダウンロードすることができます。ダウンロードしたモジュールは特定のフォルダーに配置する必要があります。

手順

- Talend MDM Serverの場合は、ダウンロードしたOracle用およびMySQLデータベース用のJDBCドライバーを次のフォルダーに配置します。
`<TomcatPath>/webapps/talendmdm/WEB-INF/lib`
- Talend Administration Centerの場合は、ダウンロードしたモジュールを以下のフォルダーに配置します。
`<TomcatPath>/webapps/org.talend.administrator/WEB-INF/lib`

Studioのインターネットアクセスを無効にする

このタスクについて

Talend Studioのインターネットアクセスを無効にするには、Studioの.iniファイルを編集します。

警告: これは、カスタムコンポーネント、サードパーティのライブラリ、その他をダウンロードしてインストールするためにインターネットにアクセスする必要がある場合にのみ行って下さい。

手順

1. オペレーティングシステムに対応するStudioの.iniファイルを開き、次の行を追加します:

```
-Dtalend.disable.internet=true
```

2. Talend Studioを再起動します。
再起動すると、Studioには以下が表示されません:
 - ツールバー上の**Exchange**リンク

- **[Preferences] (環境設定)**ダイアログ内の**Talend > Exchange**ノード
- **[Additional Packages] (追加のパッケージ)**ダイアログボックス内のサードパーティライブラリをインストールするオプション
- ようこそ画面の**[Talend News] (Talendニュース)**リンク

Talend製品のアップグレード

環境のバックアップ

各Talendソリューションのデータのバックアップと移行を行う前に、環境が正しくバックアップされていることを確認する必要があります。

環境のバックアッププロセスには、以下の必須のステップが含まれます:


注: これらのステップは次の順序で完了させる必要があります。

1. ローカルプロジェクトの保存

詳細は『Talendマイグレーションガイド』の「[環境のバックアップ](#)」を参照して下さい。

ローカルプロジェクトの保存

手順

1. Studioを起動します。
2.  アイコンをクリックし、ローカルプロジェクトをアーカイブファイルにエクスポートします。

Talend StudioでTalendプロジェクトをアップグレード

ローカルプロジェクトのインポート

手順

1. インストールした新しいTalend Studioを起動します。
2. ログインウィンドウで、**[Import] (インポート)**を選択し、ローカルプロジェクトが含まれるアーカイブファイルをインポートします。

タスクの結果

ローカルプロジェクトが **[Project] (プロジェクト)** リストと、の Talend Studio **[Repository] (リポジトリ)** ビューに表示されます。

ローカルプロジェクトをアーカイブファイルにエクスポートする方法の詳細は、[ローカルプロジェクトの保存](#) (22ページ) を参照して下さい。

付録

サポートされる他社のシステム/データベース/ビジネスアプリケーションのバージョン

このドキュメントは、Talend Studioでサポートされるシステム、データベース、またはビジネスアプリケーションのバージョンについて説明します。

Talendコンポーネントによりサポートされるシステム、データベース、ビジネスアプリケーション

システム、データベース、およびビジネスアプリケーションへのアクセスは、使用しているStudioによって異なります。

| システム/データベース | バージョン | OS |
|-------------------------------------|-------------------------|-----------------|
| Access ¹ | 2003 | Windows |
| | 2007 | Windows |
| Amazon Aurora | MySQLエディションv5 (5.6と5.7) | |
| Amazon RDS for Microsoft SQL Server | | |
| Amazon Redshift | 1.x | |
| AS/400 | V7R1～V7R3 | |
| Bonita | 6.5.2 | |
| | 7.2.4 | |
| | 7.9.0 | |
| Cassandra | 3.0～3.4 | Windows + Linux |
| CouchBase | 5.x | Windows |
| | 6.0 | Windows |
| CouchDB | 1.0.2 | Windows |
| DB2 | 10.5 | |
| 汎用データベース | ODBC | Windows |
| DynamoDB | | |
| Elasticsearch | 5.6.x | |
| | 6.4.x | |
| EXASolution | 6.0以前 | Windows |

| システム/データベース | バージョン | OS |
|------------------------------------|-----------|----------------------------|
| Excel | | |
| eXist-db | 1.4.0 | |
| FireBird | 2.1～3.0 | Windows + Linux |
| FTP | | |
| Greenplum | 4.3.x | Windows (クライアントのみ) + Linux |
| | 5.x | Windows (クライアントのみ) + Linux |
| HSQLDb | 1.8.0～2.4 | |
| IBM DB2およびIBM DB2 Z/OS | 10.5 | Windows + Linux |
| | 11.1 | Windows + Linux |
| Informix | 11.50 | Windows + Linux |
| Ingres | 10.2 | Windows + Linux |
| | 11 | Windows + Linux |
| Interbase | | |
| JavaDB | 6 | Windows + Linux |
| JDBC | | |
| JSON | | |
| Kafka ² | 0.8.2.0 | Windows + Linux |
| | 0.9.0.1 | Windows + Linux |
| | 0.10.0.1 | Windows + Linux |
| | 1.1.0 | Windows + Linux |
| | 2.2.1 | Windows + Linux |
| LDAP | バージョン制限なし | Windows + Linux |
| MapRDB | | |
| MarkLogic | V9 | |
| MaxDB | 7.6 | |
| Microsoft Azure Blob Storage | | |
| Microsoft Azure SQL Data Warehouse | | |

| システム/データベース | バージョン | OS |
|-----------------------------------|---------------------|-----------------|
| Microsoft AX | Dynamics AX 4.0 | |
| | [Dynamics AX 2012] | |
| Microsoft CRM | 2011 | |
| | 2015 | |
| | 2016 | |
| Microsoft CRM Online | 2011 | |
| | 2016 | |
| | 2018 | |
| Microsoft SQL Server ³ | 2014～最新バージョン | Windows + Linux |
| MongoDB | 3.6.x | Windows + Linux |
| | 4.0.x | Windows + Linux |
| | 4.2.x | |
| MySQL (英語版) | MySQL 5.x | Windows + Linux |
| | MySQL 8.x | Windows + Linux |
| | MariaDB | Windows + Linux |
| | Amazon RDS | Windows + Linux |
| | Google Cloud SQL | Windows + Linux |
| MOM | | |
| Neo4j | 1.x.x | Linux |
| | 2.x.x / 2.2.x / 2.3 | Linux |
| | 3.2.x | Linux |
| | 3.5.x | Linux |
| Netezza | 7.0.x | Windows + Linux |
| | 7.1.x | Windows + Linux |
| | 7.2.x | Windows + Linux |
| NetSuite | 2018 | Windows + Linux |
| OleDb | 2000 | |
| | 2003 | |

| システム/データベース | バージョン | OS |
|-----------------------------|----------------------|-----------------|
| | 2005 | |
| | 2007 | |
| | 2010 | |
| Oracle | Oracle 12cリリース1 | Windows + Linux |
| | Oracle 12cリリース2 | Windows + Linux |
| | Oracle 18c | Windows + Linux |
| | Oracle 19c | Windows + Linux |
| Palo | オープンソースバージョン5 | |
| ParAccel | 3.1 | |
| | 3.5 | |
| PostgreSQL | v7.2～v8.x | Windows + Linux |
| | v9.x / v10.x / v11.x | Windows + Linux |
| | Amazon RDS | Windows + Linux |
| | Google Cloud SQL | Windows + Linux |
| PostgresPlus | v7.2～v8.x | Windows + Linux |
| | v9.x | Windows + Linux |
| Red Hat BRMS | 6.1 | Windows + Linux |
| RESTサービス | | Windows + Linux |
| Salesforce | V46以前 | Windows + Linux |
| SAP | 4.6 | |
| SAP Business Suite (ERP) | Netweaver: 7.3～7.5 | Windows |
| | ERP6.0、EhP6～EhP8 | Windows |
| SAP Business Warehouse (BW) | Netweaver: 7.3～7.5 | Windows |
| SAP HANA ⁴ | バージョン制限なし | Windows |
| SAS | 9.1 | Windows + Linux |
| | 9.2 | Windows + Linux |
| SOAPサービス | | |
| SQLite | 3.6.7 | Windows + Linux |

| システム/データベース | バージョン | OS |
|-------------|-------------|-----------------|
| SugarCRM | 5.2 | Windows + Linux |
| Sybase | 12.5 | Windows + Linux |
| | 12.7 | Windows + Linux |
| | 15.2 | Windows + Linux |
| | 15.5 | Windows + Linux |
| | 15.7 | Windows + Linux |
| | 16.0 | Windows + Linux |
| SybaseIQ | 12.5 | Windows + Linux |
| | 12.7 | Windows + Linux |
| | 15.2 | Windows + Linux |
| | 16.0 | Windows + Linux |
| Teradata | 12~16 | Windows + Linux |
| VectorWise | 2 | Windows + Linux |
| Vertica | 9.0.x~9.3.1 | Windows + Linux |
| VtigerCRM | Vtiger 5.0 | |
| | Vtiger 5.1 | |

1 Java 8を使用する場合は汎用照合モードのみサポートされます。

2 Kerberos kinitオプションとKerberos keytabオプションはいずれもサポートされています。Kafkaコンポーネントがサポートするセキュリティオプションについては、[Talend Help Center](#)を参照してください。

3 Microsoft SQL ServerのサポートはMicrosoft SQL JDBCドライバー経由で提供されます。詳細は、「[Download Microsoft JDBC Driver for SQL Server](#)」のページを参照してください。

4 SAP JDBCドライバー経由でサポート

Talendメッセージングコンポーネントでサポートされているメッセージングブローカー

| サポートされているメッセージングブローカー/標準 | コンポーネント |
|--------------------------|-------------------|
| JMS Standard 1.1 | tJMSInput |
| | tJMSOutput |
| MicrosoftMQ 3.0 | tMicrosoftMQInput |

| サポートされているメッセージングブローカー/標準 | コンポーネント |
|--------------------------|--------------------|
| | tMicrosoftMQOutput |
| JBoss Messaging 1.4.4 | tMomInput |
| | tMomOutput |
| WebSphere MQ 8.0 | tMomInput |
| | tMomOutput |
| ActiveMQ 5.13.2 | tMomInput |
| | tMomOutput |

サポート対象のビッグデータプラットフォーム

一般に Talend は、特定のビッグデータ(Hadoop)ディストリビューションベンダーに特定のリリースを認定します。これらは通常、そのベンダー用として使用が推奨されています。特定のベンダーによる増分アップグレードとサービスパックについては、TalendはTalendソフトウェアの正常な実行を保証するベンダーの互換性ステートメントに依存します。互換性が言及されている場合、Talendはそのバージョンを弊社のサポートSLAの下でもサポートします。互換性がないことについて、Hadoopベンダーによる検証が必要な場合、Talend は再テストとアップグレードの必要性を検討します。

使用するHadoopディストリビューションまだサポートされておらず、Talend Studioでご利用いただけない場合は、アップデートにより利用可能になる場合があります。サポート情報は[Talend Help Center](#)で検索できます。

詳細は、Talend Help Centerで最新Hadoopディストリビューションのサポートの追加を検索してください。

サポートされるすべてのサードパーティーのシステム/データベースのバージョンの詳細は、[Talendコンポーネントによりサポートされるシステム、データベース、ビジネスアプリケーション](#) (23ページ) を参照してください。

Talendジョブでサポートされているビッグデータプラットフォームディストリビューションのバージョン

通常のHadoopディストリビューション

通常のHadoopディストリビューションとTalendでサポートされているビッグデータプラットフォームの間の互換性を確認するには、以下のビッグデータプラットフォームをクリックします。

- [HBase](#)
- [HCatalog](#)
- [HDFS](#)
- [Hive](#)
- [Sqoop](#)
- [Spark](#)
- [Azure Data Lake Storage Gen2](#)

- SparkストリーミングジョブでのKafka

サポート対象のBig Dataプラットフォームのうち、古くなった各バージョンはベンダーによってサポートから外されます。Talendは、ベンダーが設定したサポート終了日を過ぎたバージョンのサポートを中止します。

ベンダーがTalend製品でのサポートを中止するバージョンを引き続き使用できるように、Talendとそのコミュニティによって便利なツールが提供されます。この理由から、該当するバージョンも次の表に記載されており、製品でも利用可能ですが、Talendはそのようなバージョンに対するサポートの提供を中止します。

Talendは、次の表にあるディストリビューションのマイナーバージョンをサポートしています。

表 3 : HBaseでサポートされているHadoopディストリビューション

| Hadoopディストリビューション | バージョン | Kerberos KinitとKeytabをサポート |
|----------------------|------------------|----------------------------|
| HDP | v2.5.0 | はい |
| | v2.6.0 | はい |
| | v2.6.0.3~2.6.0.8 | はい |
| | v3.14.12-1 | はい |
| Cloudera | 5.5 (YARNモード) | はい |
| | 5.6 (YARNモード) | はい |
| | 5.7 (YARNモード) | はい |
| | 5.8 (YARNモード) | はい |
| | 5.10 (YARNモード) | はい |
| | 5.12.1 (YARNモード) | はい |
| | 5.13.0 | はい |
| | 6.1.1 | はい |
| MapR ^{1, 2} | 5.0.0 (YARNモード) | はい |
| | 5.1.0 (YARNモード) | はい |
| | 5.2.0 (YARNモード) | はい |

1 v6.0よりも前のすべてのMapRバージョンでは、MapRセキュリティチケットメカニズムがStudioによりサポートされています。

2. MapR v6.0では、HBaseサポートがMapR-DBのために削除されました。詳細は、https://maprdocs.mapr.com/home/ReleaseNotes/install_upgrade_notes.htmlを参照してください。

表 4 : HCatalogでサポートされているHadoopディストリビューション

| Hadoopディストリビューション | バージョン | Kerberos KinitとKeytabをサポート |
|----------------------|-------------------------|----------------------------|
| HDP | v2.5.0 | はい |
| | v2.6.0 | はい |
| | v2.6.0.3~2.6.0.8 | はい |
| | v3.14.12-1 | はい |
| Cloudera | 5.5 (YARNモード) | はい |
| | 5.6 (YARNモード) | はい |
| | 5.7 (YARNモード) | はい |
| | 5.8 (YARNモード) | はい |
| | 5.10 (YARNモード) | はい |
| | 5.12.1 (YARNモード) | はい |
| | 5.13.0 | はい |
| | 6.1.1 | はい |
| MapR ^{1, 2} | 5.0.0 (YARNモード) | はい |
| | 5.1.0 (YARNモード) | はい |
| | 5.2.0 (YARNモード) | はい |
| | 6.0.0 (YARNモード) | はい |
| | 6.0.1 MEP 5.0 (YARNモード) | はい |
| | 6.1 / MEP 6.1 | はい |

1 v6.0よりも前のすべてのMapRバージョンでは、MapRセキュリティチケットメカニズムがStudioによりサポートされています。

2. MapR v6.0では、HBaseサポートがMapR-DBのために削除されました。詳細は、https://maprdocs.mapr.com/home/ReleaseNotes/install_upgrade_notes.htmlを参照してください。

表 5 : HDFSでサポートされているHadoopディストリビューション

| Hadoopディストリビューション | バージョン | Kerberos KinitとKeytabをサポート |
|-------------------|------------------|----------------------------|
| HDP | v2.5.0 | はい |
| | v2.6.0 | はい |
| | v2.6.0.3~2.6.0.8 | はい |

| Hadoopディストリビューション | バージョン | Kerberos KinitとKeytabをサポート |
|----------------------|-------------------------|----------------------------|
| | v3.14.12-1 | はい |
| Cloudera | 5.5 (YARNモード) | はい |
| | 5.6 (YARNモード) | はい |
| | 5.7 (YARNモード) | はい |
| | 5.8 (YARNモード) | はい |
| | 5.10 (YARNモード) | はい |
| | 5.12.1 (YARNモード) | はい |
| | 5.13.0 | はい |
| MapR ^{1, 2} | 6.1.1 | はい |
| | 5.0.0 (YARNモード) | はい |
| | 5.1.0 (YARNモード) | はい |
| | 5.2.0 (YARNモード) | はい |
| | 6.0.0 (YARNモード) | はい |
| | 6.0.1 MEP 5.0 (YARNモード) | はい |
| | 6.1 / MEP 6.1 | はい |

1 v6.0よりも前のすべてのMapRバージョンでは、MapRセキュリティチケットメカニズムがStudioによりサポートされています。

2. MapR v6.0では、HBaseサポートがMapR-DBのために削除されました。詳細は、https://maprdocs.mapr.com/home/ReleaseNotes/install_upgrade_notes.htmlを参照してください。

表 6 : HiveでサポートされているHadoopディストリビューション

| Hadoopディストリビューション | バージョン | Kerberos KinitとKeytabをサポート |
|-------------------|------------------|----------------------------|
| HDP | v2.5.0 | はい |
| | v2.6.0 | はい |
| | v2.6.0.3~2.6.0.8 | はい |
| | v3.14.12-1 | はい |
| Cloudera | 5.5 (YARNモード) | はい |
| | 5.6 (YARNモード) | はい |
| | 5.7 (YARNモード) | はい |

| Hadoopディストリビューション | バージョン | Kerberos KinitとKeytabをサポート |
|----------------------|-------------------------|----------------------------|
| | 5.8 (YARNモード) | はい |
| | 5.10 (YARNモード) | はい |
| | 5.12.1 (YARNモード) | はい |
| | 5.13.0 | はい |
| | 6.1.1 | はい |
| MapR ^{1, 2} | 5.0.0 (YARNモード) | はい |
| | 5.1.0 (YARNモード) | はい |
| | 5.2.0 (YARNモード) | はい |
| | 6.0.0 (YARNモード) | はい |
| | 6.0.1 MEP 5.0 (YARNモード) | はい |
| | 6.1 / MEP 6.1 | はい |

注: Profilingパースペクティブでは、Hiveディストリビューションでの[Embedded] (組み込み型)接続がサポートされていません。このモードは主にHadoop開発者によるテスト目的で利用できます。組み込みモードでは、Studioを正しく実行できない場合があります。

1 v6.0よりも前のすべてのMapRバージョンでは、MapRセキュリティチケットメカニズムがStudioによりサポートされています。

2. MapR v6.0では、HBaseサポートがMapR-DBのために削除されました。詳細は、https://maprdocs.mapr.com/home/ReleaseNotes/install_upgrade_notes.htmlを参照してください。

表 7 : SqoopでサポートされているHadoopディストリビューション

| Hadoopディストリビューション | バージョン | Kerberos KinitとKeytabをサポート |
|-------------------|------------------|----------------------------|
| HDP | v2.5.0 | はい |
| | v2.6.0 | はい |
| | v2.6.0.3~2.6.0.8 | はい |
| | v3.1.4.12-1 | はい |
| Cloudera | 5.5 (YARNモード) | はい |
| | 5.6 (YARNモード) | はい |
| | 5.7 (YARNモード) | はい |
| | 5.8 (YARNモード) | はい |

| Hadoopディストリビューション | バージョン | Kerberos KinitとKeytabをサポート |
|----------------------|-------------------------|----------------------------|
| | 5.10 (YARNモード) | はい |
| | 5.12.1 (YARNモード) | はい |
| | 5.13.0 | はい |
| | 6.1.1 | はい |
| MapR ^{1, 2} | 5.0.0 (YARNモード) | はい |
| | 5.1.0 (YARNモード) | はい |
| | 5.2.0 (YARNモード) | はい |
| | 6.0.0 (YARNモード) | はい |
| | 6.0.1 MEP 5.0 (YARNモード) | はい |
| | 6.1 / MEP 6.1 | はい |

1 v6.0よりも前のすべてのMapRバージョンでは、MapRセキュリティチケットメカニズムがStudioによりサポートされています。

2. MapR v6.0では、HBaseサポートがMapR-DBのために削除されました。詳細は、https://maprdocs.mapr.com/home/ReleaseNotes/install_upgrade_notes.htmlを参照してください。

表 8 : SparkでサポートされているHadoopディストリビューション

| Hadoopディストリビューション | バージョン | Sparkスタンドアロンと連動 | Spark YARNと連動 | Kerberos KinitとKeytabをサポート |
|-------------------|------------------|------------------|-------------------|----------------------------|
| HDP | v2.5.0 | | v1.6 (非推奨) | 利用可(YARNのみ) |
| | v2.6.0 | | v1.6 (非推奨) / v2.1 | 利用可(YARNのみ) |
| | v2.6.0.3~2.6.0.8 | | v1.6 (非推奨) / v2.1 | 利用可(YARNのみ) |
| | v3.1.4.12-1 | | v2.3 | 利用可(YARNのみ) |
| Cloudera | 5.5 (YARNモード) | v1.5 (非推奨) | v1.5 (非推奨) | 利用可(YARNのみ) |
| | 5.6 (YARNモード) | v1.5 (非推奨) | v1.5 (非推奨) | 利用可(YARNのみ) |
| | 5.7 (YARNモード) | v1.6 (非推奨) | v1.6 (非推奨) | 利用可(YARNのみ) |
| | 5.8 (YARNモード) | v1.6 (非推奨) | v1.6 (非推奨) / v2.1 | 利用可(YARNのみ) |
| | 5.10 (YARNモード) | v1.6 (非推奨) / 2.1 | v1.6 (非推奨) / v2.1 | 利用可(YARNのみ) |
| | 5.12.1 (YARNモード) | v2.2 | v2.2 | 利用可(YARNのみ) |
| | 5.13.0 | v2.2 | v2.2 | 利用可(YARNのみ) |

| Hadoopディストリビューション | バージョン | Sparkスタンドアロンと連動 | Spark YARNと連動 | Kerberos KinitとKeytabをサポート |
|----------------------|-------------------------|-----------------|---------------|----------------------------|
| | 6.1.1 | v2.4 | v2.4 | 利用可(YARNのみ) |
| MapR ^{1, 2} | 5.0.0 (YARNモード) | v1.3 (非推奨) | v1.3 (非推奨) | 利用可(YARNのみ) |
| | 5.1.0 (YARNモード) | v1.5 (非推奨) | v1.5 (非推奨) | 利用可(YARNのみ) |
| | 5.2.0 (YARNモード) | v1.6 (非推奨) | v1.6 (非推奨) | 利用可(YARNのみ) |
| | 6.0.0 (YARNモード) | v2.1 | v2.1 | 利用可(YARNのみ) |
| | 6.0.1 MEP 5.0 (YARNモード) | v2.2 | v2.2 | 利用可(YARNのみ) |
| | 6.1 / MEP 6.1 | v2.3 | v2.3 | 利用可(YARNのみ) |

1 v6.0よりも前のすべてのMapRバージョンでは、MapRセキュリティチケットメカニズムがStudioによりサポートされています。

2. MapR v6.0では、HBaseサポートがMapR-DBのために削除されました。詳細は、https://maprdocs.mapr.com/home/ReleaseNotes/install_upgrade_notes.htmlを参照してください。

表 9 : Azure Data Lake Storage Gen2 (ADLS Gen2)でサポートされているHadoopディストリビューション

| Hadoopディストリビューション | バージョン | Sparkスタンドアロンと連動 | Spark YARNと連動 | Kerberos KinitとKeytabをサポート |
|-------------------|-------------|-----------------|---------------|----------------------------|
| HDP | v3.1.4.12-1 | | v2.3 | 利用可(YARNのみ) |
| Cloudera | 6.1.1 | v2.4 | v2.4 | 利用可(YARNのみ) |

ADLS Gen2版のTalendでサポートされているData Cloudプラットフォームに関する情報が必要な場合は、インストールガイドの「*Talend*ジョブでサポートされている*Cloud Big Data*プラットフォームディストリビューションのバージョン」をご覧ください。

表 10 : SparkストリーミングジョブでのKafkaでサポートされているHadoopディストリビューション

| Hadoopディストリビューション | バージョン | Sparkスタンドアロンと連動 | Spark YARNと連動 | Kerberos KinitとKeytabをサポート | Kafkaのバージョン |
|-------------------|--------|-----------------|-------------------|----------------------------|-------------|
| HDP | v2.5.0 | | v1.6 (非推奨) | 利用可(YARNのみ) | v0.10 |
| | v2.6.0 | | v1.6 (非推奨) / v2.1 | 利用可(YARNのみ) | v0.10 |

| Hadoopディストリビューション | バージョン | Sparkスタンドアロンと連動 | Spark YARNと連動 | Kerberos KinitとKeytabをサポート | Kafkaのバージョン |
|----------------------|-------------------------|------------------|-------------------|----------------------------|-------------|
| | v2.6.0.3~2.6.0.8 | | v1.6 (非推奨) / v2.1 | 利用可(YARNのみ) | v1.x |
| | v3.1.4.12-1 | | v2.3 | 利用可(YARNのみ) | v2.x |
| Cloudera | 5.5 (YARNモード) | v1.5 (非推奨) | v1.5 (非推奨) | 利用可(YARNのみ) | v0.10 |
| | 5.6 (YARNモード) | v1.5 (非推奨) | v1.5 (非推奨) | 利用可(YARNのみ) | v0.10 |
| | 5.7 (YARNモード) | v1.6 (非推奨) | v1.6 (非推奨) | 利用可(YARNのみ) | v0.10 |
| | 5.8 (YARNモード) | v1.6 (非推奨) | v1.6 (非推奨) / v2.1 | 利用可(YARNのみ) | v0.10 |
| | 5.10 (YARNモード) | v1.6 (非推奨) / 2.1 | v1.6 (非推奨) / v2.1 | 利用可(YARNのみ) | v0.10 |
| | 5.12.1 (YARNモード) | v2.2 | v2.2 | 利用可(YARNのみ) | v0.10 |
| | 5.13.0 | v2.2 | v2.2 | 利用可(YARNのみ) | v0.10 |
| | 6.1.1 | v2.4 | v2.4 | 利用可(YARNのみ) | v2.x |
| MapR ^{1, 2} | 5.0.0 (YARNモード) | v1.3 (非推奨) | v1.3 (非推奨) | 利用可(YARNのみ) | v0.10 |
| | 5.1.0 (YARNモード) | v1.5 (非推奨) | v1.5 (非推奨) | 利用可(YARNのみ) | v0.10 |
| | 5.2.0 (YARNモード) | v1.6 (非推奨) | v1.6 (非推奨) | 利用可(YARNのみ) | v0.10 |
| | 6.0.0 (YARNモード) | v2.1 | v2.1 | 利用可(YARNのみ) | v0.10 |
| | 6.0.1 MEP 5.0 (YARNモード) | v2.2 | v2.2 | 利用可(YARNのみ) | v0.10 |
| | 6.1 / MEP 6.1 | v2.3 | v2.3 | 利用可(YARNのみ) | v1.x |

Talendジョブでサポートされているクラウドビッグデータプラットフォームディストリビューションのバージョン

Cloud Hadoopディストリビューション

Talendは、ビッグデータで以下のクラウドプラットフォームをサポートしています。ビッグデータのサポート情報を確認する場合は、クラウドプラットフォームをクリックしてください。

- [Amazon EMR \(英語版\)](#)
- [Microsoft HDInsight \(英語版\)](#)
- [Google Dataproc](#)
- [AWS版Databricks](#)
- [Azure版Databricks](#)
- [AWS版Cloudera](#)
- [Azure版Cloudera](#)
- [AWS版Quoble](#)

サポート対象のBig Dataプラットフォームのうち、古くなった各バージョンはベンダーによってサポートから外されます。Talendは、ベンダーが設定したサポート終了日を過ぎたバージョンのサポートを中止します。

ベンダーがTalend製品でのサポートを中止するバージョンを引き続き使用できるよう、Talendとそのコミュニティによって便利なツールが提供されます。この理由から、該当するバージョンも次のテーブルのリストに記載されており製品でも利用可能ですが、Talendはそのようなバージョンに対するサポートの提供を中止します。

Talendは、次の表にあるプラットフォームバージョンのマイナーバージョンをサポートしていません。

表 11 : Amazon EMR (英語版)

| Amazon EMRバージョン | サポートされているフレームワーク | Spark/バッチでサポートされているHadoopエレメント | SparkストリーミングでサポートされているHadoopエレメント | StandardでサポートされているHadoopエレメント |
|-----------------------|------------------------------|-----------------------------------|-----------------------------------|--|
| v4.5.0 (Apache 2.7.2) | Standard Spark v1.6 (非推奨) | HBase HDFS HCatalog Hive | HBase HDFS HCatalog Hive | HBase HDFS HCatalog Hive Sqoop |
| v4.6.0 (Apache 2.7.2) | Standard Spark v1.6 (非推奨) | HBase HDFS HCatalog Hive | HBase HDFS HCatalog Hive | HBase HDFS HCatalog Hive Sqoop |

| Amazon EMRバージョン | サポートされているフレームワーク | Spark/バッチでサポートされているHadoopエレメント | SparkストリーミングでサポートされているHadoopエレメント | StandardでサポートされているHadoopエレメント |
|---------------------------------------|------------------------|-----------------------------------|-----------------------------------|--|
| v5.0.0 (Apache 2.7.2) | Standard Spark v2.0 | HBase HDFS HCatalog Hive | HBase HDFS HCatalog Hive | HBase HDFS HCatalog Hive Sqoop |
| v5.5.0 (Apache 2.7.2) | Standard Spark v2.1 | HBase HDFS HCatalog Hive | HBase HDFS HCatalog Hive | HBase HDFS HCatalog Hive Sqoop |
| v5.8.0 (Apache 2.7.2) | Standard Spark v2.2 | HBase HDFS HCatalog Hive | HBase HDFS HCatalog Hive | HBase HDFS HCatalog Hive Sqoop |
| v5.15.0 (Hadoop 2.8.3) (Apache 2.7.2) | Standard Spark v2.3 | HBase HDFS HCatalog Hive | HBase HDFS HCatalog Hive | HBase HDFS HCatalog Hive Sqoop |

tAmazonEMRManageコンポーネントでサポートされているAmazon EMRのバージョンは、4.5.0、4.6.0、4.9.2、5.11.0、5.15.0です。

表 12 : Google Dataproc for Big Data

| Google Dataprocのバージョン | サポートされているフレームワーク | Spark/バッチでサポートされているエレメント | Sparkストリーミングでサポートされているエレメント | Standardでサポートされているエレメント |
|-----------------------|------------------------|---|--|-------------------------|
| v1.1 | Standard Spark v2.0 | Hive BigQuery Googleストレージ Avro Delimited Parquet 固定長ファイル XML JSON | Hive BigQuery Googleストレージ Avro Delimited Parquet 固定長ファイル XML JSON Google PubSub | Hive |

| Google Dataprocのバージョン | サポートされているフレームワーク | Spark/バッチでサポートされているエレメント | Sparkストリーミングでサポートされているエレメント | Standardでサポートされているエレメント |
|-----------------------|------------------------|---|--|-------------------------|
| v1.4 | Standard Spark v2.4 | Hive BigQuery Googleストレージ Avro Delimited Parquet 固定長ファイル XML JSON | Hive BigQuery Googleストレージ Avro Delimited Parquet 固定長ファイル XML JSON Google PubSub | Hive |

表 13 : Azure版Databricks (ビッグデータ用)

| Databricks on Azureのバージョン | サポートされているフレームワーク | Spark/バッチでサポートされているエレメント | Sparkストリーミングでサポートされているエレメント | Standardでサポートされているエレメント |
|---------------------------|------------------------|--|--|-------------------------|
| 3.5 LTS | Standard Spark v2.2 | Hive Azure Blob Storage ADLS Gen1 | Hive Azure Blob Storage ADLS Gen1 | DBFS |
| 5.5 LTS | Standard Spark v2.4 | Hive Azure Blob Storage ADLS Gen1 ADLS Gen2 Snowflake DeltaLake MongoDB TDMコンポーネント(テクニカルレビュー) tDataprepRun | Hive Azure Blob Storage ADLS Gen1 ADLS Gen2 Snowflake DeltaLake MongoDB TDMコンポーネント(テクニカルレビュー) tDataprepRun | DBFS |

表 14 : Databricks on AWS for Big Data

| AWS版Databricksのバージョン | サポートされているフレームワーク | Spark/バッチでサポートされているエレメント | Sparkストリーミングでサポートされているエレメント | Standardでサポートされているエレメント |
|----------------------|------------------------|--------------------------|-----------------------------------|-------------------------|
| 3.5 LTS | Standard Spark v2.2 | Hive S3 DynamoDB | Hive S3 DynamoDB Kinesis | DBFS |

| AWS版Databricksのバージョン | サポートされているフレームワーク | Spark/バッチでサポートされているエレメント | Sparkストリーミングでサポートされているエレメント | Standardでサポートされているエレメント |
|----------------------|------------------------|---|--|-------------------------|
| 5.5 LTS | Standard Spark v2.4 | Hive S3 DynamoDB Snowflake MongoDB TDMコンポーネント(テクニカルレビュー) tDataprepRun | Hive S3 DynamoDB Kinesis Snowflake MongoDB TDMコンポーネント(テクニカルレビュー) tDataprepRun | DBFS |

表 15 : AWS版Quoble (ビッグデータ用)

| Quboleのバージョン | サポートされているフレームワーク | Spark/バッチでサポートされているエレメント | Sparkストリーミングでサポートされているエレメント | Standardでサポートされているエレメント |
|----------------|------------------------|----------------------------|---------------------------------------|-------------------------|
| Qubole Spark 2 | Standard Spark v2.2 | Redshift S3 DynamoDB | Redshift S3 DynamoDB Kinesis | S3 Hive |

表 16 : Azure版Cloudera Altus (ビッグデータ用)

| Clouderaのバージョン | サポートされているフレームワーク | Spark/バッチでサポートされているエレメント | Sparkストリーミングでサポートされているエレメント | Standardでサポートされているエレメント |
|----------------|------------------|---|---|-------------------------|
| CDH5.11 | Spark v2.1 | ADLS Gen1 Azure Blob Storage HDFS | ADLS Gen1 Azure Blob Storage HDFS | |

表 17 : AWS版Cloudera Altus (ビッグデータ用)

| Clouderaのバージョン | サポートされているフレームワーク | Spark/バッチでサポートされているエレメント | Sparkストリーミングでサポートされているエレメント | Standardでサポートされているエレメント |
|----------------|------------------|----------------------------|---------------------------------------|-------------------------|
| CDH5.11 | Spark v2.1 | S3 Redshift DynamoDB | S3 Kinesis Redshift DynamoDB | |

表 18 : Microsoft HD Insight for Big Data

| Microsoft HD Insightのバージョン | サポートされているフレームワーク | Sparkバッチでサポートされているエレメント | Sparkストリーミングでサポートされているエレメント | Standardでサポートされているエレメント |
|----------------------------|------------------|-------------------------|-----------------------------|-------------------------|
| 3.4 | Spark v1.6 (非推奨) | Hive | Hive | |
| 3.6 | Spark v2.1 | Hive | Hive | |

TalendジョブでサポートされているCloudera Navigatorのバージョン

Cloudera Navigatorに対するサポートは、Studioで作成しているSparkのジョブで利用できます。これは、サブスクリプションベースのTalend Big Dataソリューションを使用しなければならないことを意味します。

Cloudera NavigatorではCloudera SDKライブラリーによって機能が提供されているため、このSDKライブラリーのバージョンと互換性があります。Cloudera Navigatorのバージョンは、ClouderaディストリビューションによってインストールされたCloudera Managerによって決まります。また、Navigatorのバージョンに基づいて、対応しているSDKが自動的に使用されます。

ただし、Cloudera Navigatorのバージョンによっては、対応しているSDKのバージョンがない場合があります。Cloudera SDKのバージョンと互換性があるNavigatorのバージョンの詳細については、[Cloudera NavigatorとSDKバージョンの互換性](#)に関するClouderaのドキュメンテーションを参照してください。

このドキュメンテーションで使用されている用語は次のとおりです。

- サポート: Talendは完全なQA 検証プロセスを通過しています。
- 互換性: Talendは完全なQA検証プロセスを通過していませんが、当該機能はCloudera V5.XプランでClouderaの下位互換性の一部として機能します。

| Studioバージョン | Cloudera Navigatorのバージョン | Clouderaの関連バージョン | サポートタイプ |
|-------------|--------------------------|------------------|---------|
| 7.3 | 6.1.1 | 6.1.1 | サポート |
| | 2.4 | 5.5~5.8 | サポート |
| | 2.12.0 | 5.11~5.14 | サポート |
| | 2.5~2.7 | 5.5~5.8 | 互換性あり |
| | 2.9.3~2.9.x | 5.11~5.14 | 互換性あり |
| | 2.10.3~2.10.x | 5.11~5.14 | 互換性あり |
| | 2.11.2~2.11.x | 5.11~5.14 | 互換性あり |
| | 2.12.1~2.12.x | 5.11~5.14 | 互換性あり |

データのプロファイリングでサポートされるデータベース

以下の表に、ProfilingのTalend Studioパースペクティブからサポートされているデータベースを示します。サポートされているサードパーティシステムの完全なリストについては、[Talendコンポーネントによりサポートされるシステム、データベース、ビジネスアプリケーション](#)（23ページ）を参照してください。

| データベース名 | データベースのバージョン |
|-------------------------------------|---|
| Amazon Aurora | Amazon RDS for Aurora |
| Amazon Redshift | Amazon Redshiftの初期リリース |
| AS/400 | V7R1～V7R3 |
| | V6R1～V7R2 |
| Hive | データのプロファイリングでサポートされるHiveディストリビューション （43ページ）を参照してください。 |
| IBM DB2およびIBM DB2 Z/OS ¹ | 11.1 |
| | 10.5 |
| Impala (Clouderaのサブモジュール) | CDH5.1以降 |
| | MapR 6.1.0 (YARNモード) |
| | MapR 6.0.1 (YARNモード) |
| | MapR 6.0.0 (YARNモード) |
| | MapR 5.2.0 (YARNモード) |
| | MapR 5.1.0 (YARNモード) |
| Informix | 11.50 |
| Ingres | 10.2 |
| Microsoft SQL Server | Amazon RDS for SQL Server |
| | Azure SQLデータベース |
| | 2017 |
| | 2016 |
| | 2014 |
| MySQL | Amazon RDS for MySQL |
| | Amazon RDS for MariaDB |
| | Azure Database for MySQL |

| データベース名 | データベースのバージョン |
|-------------------------|-------------------------------|
| | MySQL 8.0 |
| | MySQL 5.1/5.5/5.6 |
| | MariaDB |
| Netezza | 7.2 |
| | 6 |
| Oracle SID | Amazon RDS for Oracle |
| | Oracle 19c |
| | Oracle 18c |
| | Oracle 12cリリース1 |
| Oracleサービス名 | Amazon RDS for Oracle |
| | Oracle 19c |
| | Oracle 18c |
| | Oracle 12cリリース1 |
| PostgreSQL | Amazon RDS for PostgreSQL |
| | Azure Database for PostgreSQL |
| | 12.1 |
| | 10 |
| | 9.1+ |
| | 8.3 |
| SQLite | 3.6.7 |
| Sybase (ASEおよびIQ) QLite | 16.0 |
| | 15.7 |
| | 15.2 |
| | 12.7 |
| | 12.5 |
| Teradata | 16 |
| | 15 |
| | 14 |

| データベース名 | データベースのバージョン |
|---------|--------------|
| | 13 |
| | 12 |
| Vertica | 9.x |

1 バイナリラージオブジェクト(Blob)はサポートされていません。

データのプロファイリングでサポートされるHiveディストリビューション

次のテーブルは、ビッグデータディストリビューションとHiveServerの間の互換性を示しています。

注: Hive埋め込みモードは、Hadoop開発者によるテスト目的で利用できます。埋め込みモードの場合、Studioは正常に実行されない可能性があります。

| ビッグデータディストリビューション | | HiveServer 1 | HiveServer2 |
|-----------------------|-----------------|-------------------------|-------------------------|
| HortonWorks | HDP 1.0.0 (非推奨) | 組み込みおよびスタンドアロン | |
| | HDP 1.2 | 組み込みおよびスタンドアロン | 組み込みおよびスタンドアロン |
| | HDP 1.3 | 組み込みおよびスタンドアロン | 組み込みおよびスタンドアロン |
| | HDP 2.0 | 組み込み(Linuxのみ)およびスタンドアロン | 組み込み(Linuxのみ)およびスタンドアロン |
| | HDP 2.1 | 組み込み(Linuxのみ)およびスタンドアロン | 組み込み(Linuxのみ)およびスタンドアロン |
| | HDP 2.2 | 組み込み(Linuxのみ)およびスタンドアロン | 組み込み(Linuxのみ)およびスタンドアロン |
| | HDP 2.3.2 | | スタンドアロン |
| | HDP 2.4.0 | | スタンドアロン |
| | HDP 2.5.0 | | スタンドアロン |
| | HDP 2.6.0 | | スタンドアロン |
| Cloudera ¹ | CDH4 | 組み込みおよびスタンドアロン | 組み込みおよびスタンドアロン |
| | CDH5 | 組み込みおよびスタンドアロン | 組み込みおよびスタンドアロン |
| | CDH5.1 MR1 | | スタンドアロン |

| ビッグデータディストリビューション | | HiveServer 1 | HiveServer2 |
|-------------------|-----------------------------|-------------------------|----------------------------------|
| | CDH5.4 YARN | | スタンドアロン |
| | CDH5.5 (以降) YARN | | スタンドアロン |
| MapR | MapR 1.2 (非推奨) | スタンドアロン | |
| | MapR 2.0 | 組み込みおよびスタンドアロン | |
| | MapR 2.1.2 | 組み込みおよびスタンドアロン | |
| | MapR 3.0.1 | 組み込みおよびスタンドアロン | 組み込みおよびスタンドアロン |
| | MapR 3.1.0 | 組み込みおよびスタンドアロン | 組み込みおよびスタンドアロン |
| | MapR 4.0.1 YARN | 組み込みおよびスタンドアロン | 組み込みおよびスタンドアロン |
| | MapR 5.0 (以降) YARN | | スタンドアロン |
| Apache | Apache 1.0.0 (Hive 0.9.0) | 組み込みおよびスタンドアロン | |
| | Apache 0.20.23 (Hive 0.7.1) | スタンドアロン | |
| Pivotal HD 以上 | Pivotal HD 1.0.1 | スタンドアロン | |
| | Pivotal HD 2.0 (非推奨) | 組み込み(Linuxのみ)およびスタンドアロン | 組み込み(Linuxのみ)およびスタンドアロン(Linuxのみ) |

1 Kerberos認証がサポートされています。